

「第34回旭川しんきん産業振興奨励賞」 受賞者決定

■旭川・富良野地区で事業を営んでいる法人・個人事業主の新たな技術や製品、サービスの開発や改良を表彰し、支援する「旭川しんきん産業振興奨励賞」を募集し、下記の2事業者が受賞されました。受賞された事業者および商品をご紹介します。

【振興賞】 株式会社モッコウ 開発担当 佐藤 誠
弦間 信

「UPCYC PRDCTの一環として新素材WARPの開発」

PROJECT “UPCYCLE”

日々生まれる製品の影で、捨てられ、燃やされるのを待つ端材たち。それらに利用価値を見出し、新たな製品として世に送り出すプロジェクトに取り組んでいます。

例えば、自社工場から出る端材を使って、新たな製品を開発する。取引のある資材業者などから出る端材や未利用材を使って建築材料や新たなプロダクトを開発するなど、今まで捨てられていたり燃やされていたものを新たな製品として活用する取り組みです。単にリサイクルするというのではなく、価値を高めて行くことで、持続可能な取り組みになりつつあると考えます。

このプロジェクトを具体化してきたのがMOKKOUです。

この取り組みから新素材「WARP」が誕生し、欠点が利点へと形を変え、価値を高めることに繋がります。



【奨励賞】 アイト産業株式会社 開発担当 小島 俊彦

「H型栈木を用いた木材乾燥」

弊社は20年前から丸太を製材して主に床材や家具の原板を製造販売しています。現在では、建物の床表面は本当の木材ではなく見た目が木材調のシートが約8割を占めるようになりました。

このシェア縮小のなかで、本物志向のお客様向けにより良い製品を提供できるように今回の栈木を開発しました。

栈木は木材乾燥時に積み上げた桧の中で製材同士が密着しないように1段毎に通気層を作るために使用しますが、これまでの栈木では乾燥終了後に製材と接触していた跡が変色して品質を著しく低下させることがありました。

今回の断面がH形の栈木は接触面積が少ないことから栈木跡が目立たず品質維持に大きく貢献するもので、低コストで製造する方法を確立して自社で使用していることから弊社独自の取り組みだと考えています。

